

## 胸部薄切 CT 上すりガラス成分を伴う充実成分優位な非小細胞肺癌 (>2-3cm)に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較試験 JCOG2217

### 1. 研究の対象

- 1) 臨床病期 T1bcN0M0 の非小細胞肺癌が疑われる。
- 2) 病変全体径が>2cm、かつ $\leq$ 3cm である。
- 3) GGO を伴う充実成分優位な腫瘍 (C/T 比>0.5) である。
- 4) 胸部 CT で切除断端から腫瘍まで 2 cm 以上の切除 margin が確保できると判断される。
- 5) 腫瘍中心部が肺野末梢 (外套 3 分の 1) に存在する。

### 2. 研究の目的・概要

病変全体径 2 cm 超 3 cm 以下の充実成分優位 (C/T 比>0.5) な病変における標準治療は肺門・縦隔リンパ節郭清を伴う肺葉切除になります。一方、病変全体径 2cm 以下の充実成分優位な病変においては JCOG0802 / WJOG4607L の結果、肺葉切除に対する区域切除の全生存期間における優越性が示されています。病変全体径 2 cm 超 3 cm 以下の充実成分優位な肺癌に対しても切除範囲を減らすことでベネフィットを得られる可能性が考えられます。参加していただいた場合、手術中に以下の A 群、B 群のいずれかの割り当てられた手術が行われ、術後経過、合併症、再発、予後などの情報が集められ、比較することによりどちらがよい手術かを決めます。

A 群：肺葉切除

B 群：区域切除

### コメント

今回の対象となる肺癌が疑われる場合にどちらを薦めるべきかに関しては現時点ではわかっていないため、この試験に参加していただき、将来の標準治療が確立されることにご協力していただければと考えています。